

# 学習サポート： チュータリングの実践状況の考察

加藤 映子・智原 哲郎・中井 弘一・稲田 依久・大西 蝶子

## Examining Tutoring as Study Support

Eiko Kato-Otani, Tetsuro Chihara, Hirokazu Nakai, Iku Inada, Choko Onishi

### 抄 録

大阪女学院大学・短期大学の英語教育では持続的な学習が求められる。特に、入学してくる学生の中には、高等学校在学時までとは異なる課題や学習方法に戸惑う者や、学習姿勢が確立されていない者も存在し、持続的な学習に困難が生じる場合がある。そのような学生をサポートするため、本学では2004年度より Self Access & Study Support Center (SASSC) を設立した。そのSASSCの活動で実施しているチュータリングの実践状況について、本稿は考察を行った。チュータリングを利用した学生の相談内容は多領域にわたるが、相談件数の多かったライティング、リーディング、文法の相談内容に的を絞り、その相談を求める理由を分析した。チュータリングのアンケート結果からは、チュータリングを利用した学生の満足度は高いが、教員がその利用を促す役目を担うことが重要であることが判明した。

**キーワード：**学習サポート、英語学習、チュータ、チュータリング方法、WebCT

(2007年9月28日受理)

### Abstract

English education at Osaka Jogakuin College (OJC) requires students to study continuously throughout the year. Some students struggle with new methods of learning, which are quite different from those of their high school days. Compounding these methods is the fact that some students also lack basic study habits and learning skills. To support such students, OJC established a Self Access & Study Support Center (SASSC) in 2004. Writing, reading and grammar were all subjects students received tutoring in. This study examines why students needed help with these subjects, how tutoring was conducted, and what students' responses were to the tutoring. Those who received tutoring seemed to be quite satisfied with its results leading us to recommend that teachers actively advise students to avail themselves of the tutoring program.

**Key words :** study support, English learning, tutor, tutoring method, WebCT

(Received September 28, 2007)

## 1. はじめに

2004年度に開学した大阪女学院大学国際・英語学部では、これまで大阪女学院短期大学で構築してきた英語教育カリキュラムを大学の英語カリキュラムの最初の2年間に当て実施している。その上で、3年次からの専門展開群の授業を英語で行っている。したがって、初年次の英語教育のカリキュラムは、英語で行われる専門展開群の授業を効果的に受講できるよう、論文作成能力、読解力、ディスカッション能力、プレゼンテーション能力を育成することに重点を置いている。そのため、入学したばかりの学生にとっては、こうした「大阪女学院での学習方法」に戸惑うことが多い。そうした学生のため、大学開設時に学習サポートの一環としてチュータリングを開始した。本学のチュータは、大阪女学院短期大学から他の四年制大学に編入した学生ピアチュータである。在学中の成績、TOEICスコア、学習態度をもとに担当教員の推薦を受けた語学指導力をもった卒業生である。学期中（毎週月曜日から金曜日の16時から20時）、交代で常勤し、学習上のアドバイスを必要とする学生に対して、授業で理解できなかったことや学習の方法について個別に対応するものである。本稿では、学習支援の一環としてのチュータリングに焦点を当て、学生が学習上の問題を気楽に個別相談し、指導を受けられる「チュータによる学習支援システム」が学習に及ぼす影響を論じる。

## 2. 大学における学習サポート

### 2.1 日本の大学の状況

高等教育機関への進学率が50%を超え、学力、学習動機などの面で多様化した新入生の増加にともない、教育ニーズの多様化が顕著になってきた今日、「学生支援」が大学教育の重要な役割を果たすようになった。その中でも、大学が掲げる教育目的・教育目標を達成させるため、新入生に基礎学習の補習や基礎スキルを身に付けさせようとする「学習支援」を学生支援の中心に据えている大学が多く見受けられる。文部科学省による「特色ある教育支援プログラム」<sup>1</sup>に選定された大学のうち「学習支援」を含んだ取組の主なものを拾ってみると、多彩な学習支援が行われていることが見て取れる。

- 能力や学習スタイルなどが異なる学生に対応した、授業以外でも自主的に英語の学習時間を増やすための学習支援システムを構築している。学習センターでは、学生は自由に教材や学習スタイルを選択して語学学習ができる。また、専任のラーニング・アドバイザー3名が常駐し、学生とインタラクションを図る（神田外国語大）。
- 学生の学習意欲を高め、基礎学力をつけさせるため、全学生にパソコンを無料配布し、学生が主体的に取り組めるインターネットを活用した自学自習システムを構築している（名古屋学院大学経済学部）。
- 1年生全員を対象とし、日本語で読む・考える・書く力を向上させる教育を実践している。4名の教員とチュータ8名が学生一人ひとりの作文に個別的に対応する添削指導

を行っている（京都精華大学人文学部）。

- 学習支援センターにおいて、専任教員等が「個別相談」に応じる。また、個々の学生のニーズに対応する「単位化されない自由な講義」と「単位化された正課以外の講義」等を開催し学力不足の学生に対応している（関西国際大）。
- 学生の多様化に対応した実践的技術者の育成のため、少人数クラスでの新入生導入教育「スタディスキルズ」および習熟度別クラス編成による「数学」教育のカリキュラムを実施している（高知工科大学）。
- 推薦入試で合格した専門高校卒業生を対象とした物理・数学・化学・英語などの基礎教科のリメディアル教育を実施している（長崎大学工学部）。
- 複数のスタッフが常駐する「履修相談室」および学生と教職員を結ぶ「履修記録ノート」を取り入れる事により、学生の科目選択や進路選択など個別の学生の志向に合った教育指導を行っている（北海道浅井学園大学短期大学部）。
- 学力が不足する学生のための支援活動として、入学内定者に「入学前ゼミナール」、入学時に基礎学力調査、入学後は補習授業、国家試験対策模試などを実施している（新潟工業短期大学）。

欧米の大学ではチュートリアル制度が一般的であり、個人または少人数の学生に対して、教授や大学院生らが個人指導や補足的な授業を行う。日本の大学においても、英語で「家庭教師」や「個人教師」を意味するチュータ制度を取り入れているところも少なくない。ある大学では、先輩の在学生在が研修を受けてチュータとなり、教員の指導のもとで新入生の学生生活におけるアドバイスを行ったり、上級生と新入生との交流の機会をつくったりする。別の大学では、外国人留学生の学生生活をサポートするチュータ制度もある。さらに、教員がチュータとなり、10名程度の学生を入学から卒業まで受け持ち、学生生活全般をサポートする大学もある。

## 2.2 米国で実施されている学習支援プログラム

上記のように日本における学習サポートは教員や院生を中心したものだが、米国では Learning to Learn（以下 LTL）<sup>2</sup> という米国教育省支援のチュータリングを実施している。LTL は Marcia Heiman によって開発され、現在では全米 100 以上の大学で取り入れられており、全米唯一の効果的なプログラムとされている。LTL の効果は長期にわたる GPA の向上と卒業率の高さである。これは統計的にも有意差が検証されている。LTL はミシガン大学での効果的に学ぶ学生の思考力の研究に基づいている。効果的に学ぶ学生の特色は以下のとおりである。

- 新しい情報について自分自身に質問をする。
- 課題を小さな自分が扱える部分に分ける。
- 目的をめざし、結果に向かう途中脇道にそれない。
- 何を知っているか、何を知るべきかを理解するための学習プロセスにフィードバックを得る。

上記のような学習姿勢を確立できていない学習者のために、LTLはトレーニングを行っている。

Boston College で実施されている LTL のプログラム<sup>3</sup> は、家族の中で初めて大学に進学した学生、経済的支援を受ける学生、GPA が 2.4 以下の学生を対象として以下のような指導を行っている。

- ・学習スキルを教え、卒業率を向上させている。
- ・LTL 参加学生の卒業率が 95 ～ 98% に対し、LTL を受講しなかった学生の卒業率が 83% という統計を出している。
- ・科目として開講している Applications of Learning Theory (50 分授業週 2 回で 3 単位) の他に GRE や LSAT<sup>4</sup> の準備クラス、大学入学前に実施される 3 週間の夏のプログラム、奨学金の相談、アカデミック及び個人的なカウンセリング、カルチャーイベント、リエゾンを配置し、各学部や寮との連携、教職員へのワークショップ、Learning and Study Strategies Inventory (LASSI) の実施を行っている。
- ・LTL で教えている学習スキルは、講義ノートから質問を生み出す、答えや例を見いだすリーディング、時間・タスクマネジメント、答えを導きだすライティング、新しい学期で要求される内容や学習スキルを LTL である。
- ・試験対策としては、キーワード、質問作成、模擬試験、試験分析を行っている。
- ・LTL と教えることがかみ合った時、学習意欲に欠ける、効果的に読めない、分析能力に欠ける、成績ばかりを気にするといった問題に教員が効果的に取り組むことができるとしている。

上記のようなプログラム実施のため、3 人の専任スタッフ、3 人のパートスタッフ、8 人の Teaching Assistant (以下 TA) が配置されている。チュータの役割を担う TA は院生ではなくさまざまな分野専攻の学部生である。TA は Applications of Learning Theory を受講した学生の中から希望者を募っている。

### 3. 大阪女学院大学・短期大学におけるチュータリング運営方法

#### 3.1 本学初年次英語教育の現状

大阪女学院大学および大阪女学院短期大学は、大学を人格形成の場として捉え、それを通して大学で学ぶことや社会で働く意味を探し出すと同時に専門的知識およびスキルを身につけて、社会に積極的に貢献できる女性を育成することを教育目標としている。その達成のために、初年次では、教養教育と英語教育を教育課程に融合させ、総合化された全人教育を行っている。また、1 年生が積極的に学ぶ姿勢を身につけることができるように、入学直後から始まる一週間にわたるオリエンテーションを実施し、大学での学び、学習方法、学習支援体制などを周知させている。

本学の英語教育の特長的なものに、英語統合課程 (Integrated Units) がある。その学習期間は 1 年間にわたり、「Reading」、「Discussion」、「Writing」の 3 科目を統合し、テー

マに基づいた資料を読む→講義を聴く→資料や講義の内容に基づく話し合いをする→その内容に関する自分の考えを論理展開法に沿った文章で表現する、という一連の行為を英語で行うコンテンツベースの英語教育を展開させている。学生はプレースメントテストの成績によって4レベルに分けられた20～25名程度の習熟度別クラスに配置されるが、下位レベルの学生の学習への動機付けを損なわないよう全レベルに同一教材を使用し、各担当者がレベルに見合った授業方法を取っている。

しかしながら、この数年、下位レベルの学生の増加にともない、授業内容の理解に困難を覚える学生の数も増加した。この状況下では、いかに均質化された授業内容を構成しようとも、多様な学生の学習ニーズに対応するには習熟度別クラス編成のみでは不十分である。それ故、正規授業と連携を保ちながら個別対応による学習サポートシステムの構築の必要性を鑑み、学内に Self Access & Study Support Center (SASSC) を常設した。その活動の中心となるのが Writing Center<sup>5</sup> と Tutoring である。

## **3.2 担当教職員とチュータとのコミュニケーション**

### **3.2.1 オリエンテーションの実施**

チュータを担う学生には年度初めにオリエンテーションを実施し、チュータリングの際の学生との接し方、相談の乗り方、相談内容に対する応え方などを伝えている。また、Web CT (web communication tool) 上に記録や報告を記載することなどの確認も行っている。月曜～金曜日の5人のチュータに対し、教員もそれぞれの担当・当番日を決めており、オリエンテーション(付録A参照)は担当教員とチュータとの顔合わせでもある。ネットによるコミュニケーションをとる場合、面識のあるつながりはお互いの信頼を築くとともに、チュータの学生がやる気を出す要因の一つになると考えられる。

### **3.2.2 Web CT を活用したチュータとのコミュニケーション**

時間が許す限り、当番日の担当教員はチュータの業務時に一声かけることを心掛けている。チュータが担当した一日の相談内容は、図1が示すWeb CTサイトのSASSC(自習サポートセンター)「チュータ連絡帳」に報告することとしている。担当教員とのやりとりは、この連絡帳内で行いお互いの連携をとっている。他に、「先生・スタッフより」というトピック・コンテンツがあり、特に全チュータにこちらから伝えたいことがあるときに使っている。ただし、SASSCは関係者だけが閲覧できるクローズの環境で運営されている。



図1 SASSC (自習サポートセンター) Web-CTのトップ画面

2007年度春学期は、チュータリングが5月7日からスタートし、図1のtotal欄にあるように「チュータ連絡帳」での担当教員とチュータとのやりとりは95回(通)あった。「先生・スタッフより」では9通のメッセージをチュータに送っている。「先生・スタッフより」の内容は図2のとおりである。「タイムカードについて」、「秋学期」など、主に実務的な連絡をしているが、「単語の指導について」、「Writing Questions」などのように、教員から全チュータに連絡すべきことを掲載している。



図2 「先生・スタッフの方より」のトップ画面

担当教員からの連絡例の一つを紹介する。

【単語の指導について】

みなさんへ、ひとつ注意です。Reading 関連の質問で単語についてあると思いますが、ガイダンスでは以下のように指導しています。

**「教材の単語の意味を教材に書き込むことはやめましょう」**

復習するときにその意味を見てしまうからです。意味を覚えているかのチェックになりません。

**「わからない単語をすべて辞書でひく必要はありません」**

文脈から推測するというのも重要なスキルです。前後を読んでどういう意味か考えてみるということです。ただし、頻繁に出てくる単語、重要と思われる単語はひきましょう。どの単語がエッセイの中で重要かあまり重要でないかを考えさせてください。「単語帳を作ったほうがよいですか」という質問にはあまりお勧めしない」という返答をしています。しかし、そうやって覚えていく学生もいるでしょうから、学生自身の方法をきいてみてください。単語帳を作るなら、単語がどのようにセンテンスで使われているのかを書くということをおすすめしてください。

上記わからなければ、それぞれのチュータの担当スタッフにきいてみてください。よろしくね。(K)

「チュータ連絡帳」でのやりとりは、表 1 の報告・レスポンス回数が見えるように、日々のコミュニケーションを欠かさず行うようにしている。毎回の報告は、きめ細かいもので、相談の様子が手に取るように分かる。担当教員はこれらを読むことで相談状況を把握している。

**表 1 2007 春学期 Web CT 上での Tutor と担当教員とのやりとり**

(単位：通)

	5 月 (19 日間)	6 月 (20 日間)	7 月 (16 日間)	計 55 日間
Tutor からの報告	18	22	12	52
担当教員レスポンス	20	13	10	43
計	38	35	22	95

通常、チュータにレスポンスを送ることで質問や課題に対応したりしているが、相談学生から苦情のような内容の報告を受けた場合は、英語教育企画・推進委員会委員長と担当リエゾンに直ちに報告し、その対処を図っている。7 月のやりとりがやや少ないのは、チュータ自身が忙しく細かな報告を行うことができなかつたと思われる。

Discussion Messages: Tutor 連絡帳

Compose message | Update listing | Search | Mark all as read | Message options :

Display:  All  Unread  Threaded  Unthreaded | Select topic: Tutor 連絡帳 | Go

No.	Status	Subject	Author	Date
511.	<input type="checkbox"/>	07/05/07 @chitagama	SASSC (DJ00004)	May 7, 2007 20:03
512.	<input type="checkbox"/>	Re: 07/05/07 @chitagama	SASSC (DJ00004)	May 8, 2007 14:10
514.	<input type="checkbox"/>	08/05/08 Akane Nabeo	SASSC (DJ00004)	May 8, 2007 20:19
521.	<input type="checkbox"/>	2007/5/9 kizamoto shoko	SASSC (DJ00004)	May 9, 2007 20:06
522.	<input type="checkbox"/>	Re: 2007/5/9 kizamoto sho...	SASSC (DJ00004)	May 9, 2007 22:03
523.	<input type="checkbox"/>	2007/5/10	SASSC (DJ00004)	May 10, 2007 20:09
524.	<input type="checkbox"/>	2007,05,11 Natsumine	SASSC (DJ00004)	May 11, 2007 20:40
529.	<input type="checkbox"/>	Re: 2007,05,11 Natsumine	SASSC (DJ00004)	May 14, 2007 18:33
530.	<input type="checkbox"/>	@chitagama 05/14	SASSC (DJ00004)	May 14, 2007 19:48
531.	<input type="checkbox"/>	Re: 07/05/07 @chitagama	SASSC (DJ00004)	May 15, 2007 07:57
532.	<input type="checkbox"/>	Re: @chitagama 05/14	SASSC (DJ00004)	May 15, 2007 08:09
533.	<input type="checkbox"/>	Re: 2007/5/10	SASSC (DJ00004)	May 15, 2007 12:15
534.	<input type="checkbox"/>	Re: 08/05/08 Akane Nabeo...	SASSC (DJ00004)	May 15, 2007 14:49
535.	<input type="checkbox"/>	2007 5/15 Akane Nabeo	SASSC (DJ00004)	May 15, 2007 20:13

図3 「チュータ連絡帳」トップ画面

図3は、チュータの報告に対して担当教員が「Re:」の形でレスポンスを行っていることを示している。このWeb CTサイトは、前述のように担当教職員とチュータにオープンされている。したがって、それぞれのsubjectをダブルクリックすれば閲覧できるようになっており、チュータは自分以外のチュータが受けた相談内容や担当教員のレスポンスをシェアできる。ある日の報告例と担当教員からの簡単なレスポンスの一例を紹介する。

#### 【チュータからの報告】

1人目は、DiscussionのDialogueの内容を日本語から英語にどうやって書き換えればいいのかということでした。まず、発話者は何をしたいのか、主語・動詞・目的語をしっかりと押さえることが大事ということを伝えました。すると、どんどんと文を作ってくれて理解してくれたみたいで良かったです。

2人目は、Writingの見直しをしてほしいとのことでした。私が見直した分では、Main ideaがなかったのと、最後のConcluding sentenceの内容が少ない点が見えました。main ideaはDeveloping paragraphを説明するために大事な文で、その前置きとして主題となる文が必要ということを伝え、例を挙げながら説明すると、理解していたようでした。Concludingについては、IntroとDevelopingをまとめる部分で、もう一度2つのparagraphを要約することが必要ということを伝えました。

(途中省略)

6人目の方は、Readingについてでした。明日Unit Examがあるので、どのように勉強すればいいか、といった相談でした。現時点での勉強法はというと、日本語訳にきっちり訳していたので、訳すよりも内容を理解するために、文章の大まかな内容をメモする程度でいいことを伝えました。また、勉強の仕方は、かつて自分がやっていた方法を伝えました。穴埋め問題は、文が覚えるまで読み込んだり、動詞と名詞をセットにして覚えたり、といった方法を伝えました。



以上、今日の6人の相談内容についてでした。(A)

#### 【簡易レスポンス】

訳中毒に陥っている学生もいますね。確かに、スキーマ的にはトップダウンとボトムアップが必要ですが、大学生のレベルで、ボトムアップが主体になると *Reading for the language* レベルとなり *Reading for the content* にならないですね。(N)

このようにチュータの報告は非常に詳細な報告となっている。担当教員のレスポンスは、すべてのことに応えるのではなく、大切だと思われる一点を簡易に伝えるようにしている。チュータの守備範囲でない相談内容には、担当部署に相談するようにと伝えるよう連絡している。相談に来た学生や担当教員から信頼されて働くことは、チュータ自身の成長に欠かせないものであると考えられるので、チュータへの信頼を通してチュータの意欲や自主性を育むことにつとめている。

### 3.3 Web CT を活用した連携のメリット

元来、Web CT を活用するメリットは、1) 双方向のコミュニケーションを行うことができる、2) 報告や質問への対応などを共有することができる、3) 自分のペースでやりとりができる、4) 一斉連絡ができる、などがある。授業で活用される Web CT には、1) PC が全員に行き渡っているかどうかその環境に依存する、2) 教材の準備時間が増大する、3) 対面式でないのでもいい意味での緊張感がない、などの課題が考えられる。しかしながら、このチュータリングの運営での活用は、メーリングリストによる配信と異なり、メールのやりとりを整理した形で表示し共有することができる。連携をとることが目的であるので、デメリット面はあまりない。情報の共有は、チュータや担当教員、関係スタッフに安心感をもたらしていると言える。

## 4. 学習以外の相談について：チュータからキャンパスライフコーディネータ(以下 CLC)<sup>6</sup> への相談内容

チュータのところに相談に来る学生は、チュータがどのような内容に関してサポートできるのかはリーフレットはじめ掲示などで説明されているが、学生の抱えている問題は当然、いくつか混在をしていることがあるので、チューターの相談内容の範囲を超えるようなケースは、本人の了解を得て、CLC のところに学生を連れて来たり、その後の対応の相談を受けたりしている。

チュータからの相談内容の主なもの

- ・相談内容が混在していて、どのように整理をすればよいのかわかりにくいので聞き取りをしてもらえないか
- ・英語の授業に関することで説明をしていたら、授業に来られない理由が、健康面のことで、チュータとしては受け止められないので聞き取りをして対応してほしい
- ・英語学習に関するコメントはしたが、その後、授業に出席できているのかどうか見

- 守ってほしい
- ・ 数回、続けて来ていたが、急に来なくなった。その後、授業に出席しているのだろうか
- ・ チュータの卒業生が編入学生であることから、編入学の勉強方法や進路相談であった。個人としての体験は説明したが、進路相談を受けた方がよいと思ったのでその後のフォローをしてほしい
- ・ 進路に関してまだ決められずに迷っている など

## 5. 利用状況分析及びその考察

チュータリングの利用状況の把握は、大学にとって学生の抱える問題点を掴む上で大切である。チュータは相談を受けた時、可能な限りチュータリング記録（付録B）に相談内容と学生の氏名、クラスを記入することになっている。その結果をまとめたデータと学期末毎に実施している学生アンケート（付録C）結果（付録D）を元に、利用率、利用相談を受けた科目、学年別の利用、利用者のレベル、満足度、教員の関わり、成績との関係についての分析を行った。

### 5.1 利用率について

アンケート結果では、学生の約8割がチュータリングについて知っている。しかし、利用している学生はそのうちの3割に満たない。利用した学生の相談内容をみると多領域にわたるが、最も多い相談内容がライティング、リーディング、文法である。なぜ学生はこれらの科目の相談を求めるのかを以下に考察した。

#### 5.1.1 ライティングの相談について

チュータリング記録あるいはチュータ連絡帳の中にも頻繁に報告されるのがライティングの相談である。和文英訳が中心であったと考えられる大学入学前の英作文学習から、入学後すぐのUnit 1ではパラグラフ、Unit 2ではエッセイの提出が義務づけられている。学生にとっては内容のみならずパラグラフやエッセイの展開法を習得する必要があるが、なかなか難しい。チュータは2年間の大阪女学院短期大学の英語の授業で英語の論理展開法や構成を習得できた卒業生である。上記（3.2 WebCTを活用したチュータとのコミュニケーション）チュータ連絡帳にあるように main idea が見あたらない、conclusion に要約が必要というアドバイスをしている。Writing Center も設置しているが、英語話者教員が担当しており、入学直後に「英語で質問をする」ということがなかなか難しい1年生にとってはチュータリングで自分のライティングの問題点を見いだすことができる。あるいは、チュータが Writing Center の教員に英語で質問内容を伝え、その後は Writing Center で指導を受けている。このようにチュータはどうか質問すればよいかという例を示す役割も担っている。また、2年生ではAPAスタイルのリサーチペーパーが要求されているが、テーマの設定、資料の探し方、ペーパーの構成、APAスタイルの引用や文献リストの作成方

法などの指導を行っている。

### 5.1.2 リーディングの相談について

アンケート項目としてのリーディングの内容はもっぱら1年生の場合は統合課程(Integrated Units)の科目としてのリーディングの授業に直接関連する内容に関わるものであり、2年生の場合はリサーチペーパーを要求している授業に関わるものであるため、ここでの考察も上記の科目に関するものとする。

1年生のリーディング相談件数はライティングに関する相談に次いで多く、しかも各年度春学期にその相談件数が集中している。この現象は、各チューターが毎日Web上に担当日の報告を寄せるその内容から明らかなように、春学期に学生がチューターに相談したかった事柄が秋学期には解消されていること、また秋学期には春学期ほどには相談の必要を感じなくなっている、ということを示している。本学での英語の学習が始った直後に1年生の学生達が直面する主たる問題点として次の四点をあげることができる。

まず第一は、本学でのリーディングの授業が要求する読解力および読解の方法が学生達のそれまで慣れてきた基準や方法と異なることによる困惑と不安である。高等学校でのリーディングの授業では、学習指導要領の改訂を経てパラグラフ・リーディングや英問英答による理解などが進められてはいるが、英語で書かれている文章を日本語に訳す作業に重点を置いた指導が今も主流であるという傾向がある。本学のリーディングの授業ではテキストの日本語訳は行わず、学生にも要求しないことを原則としている。この時期に1年生が抱える問題は、読んだ内容を英語で内容確認する質疑応答、同じ内容を異なる英語で表現するというパラフレーズで展開している授業に慣れるのに時間がかかることにある。日本語に置きなおすという確認手段がないこと、加えてパラグラフの概念や構造が十分に理解できないという点である。この問題は、1年次リーディング担当専任・非常勤教員が授業中、授業外でこの時期に学生から受ける質問の内容と共通している。しかし、これらに関する疑問や不安は、秋学期のチューター訪問学生数の減少に明らかなように、Unit 1の8週間(3週間の導入期間を含む)およびそれに続くUnit 2の5週間の後にはほぼ解消されていると考えられる。

第二には春学期に学ぶ2つのテーマ、Unit 1「平和の追求」とUnit 2「科学と宗教」というテーマが学生のそれまでの日常生活に直結していないこと、加えて本学でのリーディングで求めるものが、単なるテキストの英文理解を超えて世界を知ること即ち自分自身を知ることに通じる、という複合的かつ統合的目標の達成である、という点にある。リーディングにおける学習内容と現実的日常生活との乖離を解消する方法を相談するためにチューターを訪れるケースが見受けられる<sup>7</sup>。

第三には読解力を支える英語語彙数が不足していることと英語文法の知識が充分ではないことがUnit 1の授業が進むに連れて自覚されてチューターに相談するケースである。チュータリングでは、リーディングの授業と同じようにテキスト本文の日本語訳は行わずに英文の内容の理解を助けるために語義の確認と英文の構造を分析・説明し、そうすることで語彙習得と文法知識が読解力を養ううえで重要であることを学生が認識できるように

指導を心掛けてもらっている。

第四には、相談内容としては軽微に見えるが大学生の本質に触れる重要な点と思われるものとして、学習習慣が身につけていないことからの相談がある。例えばテキストを読むうえでの辞書の使い方やどのように授業にとりくめばよいのか分からない、復習クイズや単語クイズが頻繁すぎてその対処法が分からない、初めて取組む自宅での学習や宿題にとまどっているといった具体的方法論の相談や、予習や復習に意義が見出せないといった学習への姿勢を問う相談までさまざまである。この点に関してもチュータにすべて任せているのではなく、リーディングの授業中には担当教員が自主的な準備や学習の必要性を説き、専任・非常勤ともに教員が授業時間外の個人面談の希望に応じて学生の相談にのっている。

次いで2年生の相談についてであるが、チュータへの相談件数は2004年度から2007年度春学期末まで短期大学、大学をあわせて51件と少ない。相談内容は大きく分けてテキストの読み方に関するものと配属クラスに関するものに分類できる。第一の読み方に関しては、1年生で指導を受けた英語で書かれた文章群の意味するところを日本語訳しないで理解するという読み方を2年生でも踏襲するのであるが、1年生との違いは読む内容の専門化と1時間の授業のために予習で読む量の増加である。1週2時間連続の授業で毎週20ページの内容をカバーする、という科目を少なくとも2種類は履修することから、いかにしてこのリーディングの量に対処するかという相談がある。これについては1年次でのパラグラフを論理展開の単位とする読み方や繰り返しの多い内容に関してはキーワードを拾って要点を確認するスキミング、語義を文脈や表現形式や内容から類推したりすることを再度勧めている。これらの授業では担当教員がリサーチペーパー作成のための個人面談を行っているので、その機会に教員からリーディングに関しての助言を受ける学生も多くいることが2年生のチュータ相談数が少ないことの要因のひとつと考えられる。第二の配属クラスに関しては、少人数クラスを原則とするが故に第一希望の授業を選択できなかった学生が授業内容理解を深めるための背景知識に関する相談に訪れることもあった。しかし、概して2年生の相談件数は1年生に比して少ないことは1年次に学習姿勢や読み方を習得した結果といえる。

### 5.1.3 文法の相談

文法学習は一般的に高校の1年次で副教材による授業で学んでいる程度であり、学生にとって「苦手・嫌いな科目」の一つである。さらに、本学で使用される教科書は従来とは異なったアプローチで構成されており、春学期には理解に困難を覚える学生が多い。チュータは教科書を中心に学習をサポートしているが、2006年度より、これに加えてワークシート（「くたばれ文法」）を使用しながら学生の基本的な文法理解を助けている。しかし、1年次必修科目であり、苦手としているにもかかわらず、利用者は多くない。これは、学生が文法をそれほど重要だとは考えておらず学習優先順序では二の次に考えているのであろう。学生の意識改革が必要である。

### 5.1.4 その他の科目の相談

上記3科目の他に、音声学、ディスカッションについても学生はチュータに相談にきて

いる。2006年度まではチュータリングでは音声学の相談を行っていなかったが、2007年度からは品詞等の文法項目の相談を受け付けるようになった。その結果顕著に利用件数が伸びている。ディスカッションのクラスではニュースレポートやプレゼンテーションが課題として出されるが、その取り組み方について相談に来ている。いずれも大学に入って取り組む内容の科目の相談が多い。

## 5.2 1年生と2年生の相違

2年生のチュータリング利用率は、1年生のそれと比較すれば、短期大学では67%、大学では80%の減少を示している。その理由として、第一に、2年生は一年間の学習で全般的な授業の対応の仕方や自発的な学習が身に付いてきたことが挙げられる。次に、2年生が求める学習サポートの中心がライティング・センターに移行した事である。同時に5.1.3で指摘したように、2年次では多数のリサーチペーパーの作成が要求されるので、英語話者教員によるライティング・スキルや論理展開法の向上のための個別指導を受ける。2年生のチュータリング利用で1年生と異なるのは、短期大学学生の編入・留学および進路・就職についての相談である。チュータは短期大学から他の四年制大学に編入した卒業生であるので、この種の相談が多くなるのである。

## 5.3 利用者の英語習熟度レベルについて

1年生、2年生共に本学開発の Placement Test<sup>8</sup>（以下 PT）のテスト得点上位者から a クラスから d クラスまでの 4 レベル<sup>9</sup>で配属されている。チュータリング開始当初、1年生のチュータ相談は PT 得点下位学生が多いのではないかと予想していたが、相談件数の結果、クラス間の顕著な差は見受けられなかった。ただし、クラス授業担当者が授業でチュータリング利用を強く勧めることで（付録 D アンケート結果 項目 6 参照）他年度と比較すると年度初めの春学期における相談件数が多くなったと考えられる。06年度短期大学1年生 c1、c2 / 06年度大学 c2、d2が同じクラスでも秋学期には、春学期とは異なり、いずれのクラスもチュータリング利用件数が減少している（付録 B 1年生クラス別利用状況参照）。学生に自主的な学習を勧める一環としてチュータリングを利用することの効果があったといえよう。

2年生の場合は2004年度から2007年度春までの短期大学 a～n の14クラス<sup>10</sup>のうち a～d の4クラスの利用が64件であるのに対して、2004年度 h～n の10クラス、05年度と06年度 e～j の6クラス、07年度 e～i の5クラスの相談件数が55件、大学では05年度から07年度春まで a～c の3クラスで45件、d～g の4クラスで31件と PT 得点上位者のクラスの学生の相談件数が多いことが分かる（付録 B 2年生クラス別利用状況参照）。また教員の強い勧めがあった2006年度、2007年度春に関しても、他年度と比して顕著な差は認められない。このことから2年生に関しては PT 得点上位者が自主的にチュータリングを利用して意欲的に学習に取組もうとしている傾向を示していると考えられる。

## 5.4 満足度について

チュータリングアンケート（付録D）項目3「チュータリングに満足していますか」の集計結果の平均をみると、チュータリングに満足している学生の割合はかなり高く、相談に行った学生はおおむねチュータリングに満足している（「非常にそう思う」と「そう思う」の合計）という集計結果（表2参照）が出ている。これはチュータとして後輩達により助言を呈している卒業生の誠意と努力がもたらした結果であると考えられる。

表2 チュータリングに満足していますか。

単位：%

	短期大学		4年制	
	1年生	2年生	1年生	2年生
不満（そう思わない、全くそう思わない）	14	17	10	20
満足（全くそう思う、そう思う）	81	75	88	67

この点に関しては以下にあげる集計結果5)「チュータのアドバイスは役に立ちますか」(「非常にそう思う」と「そう思う」の合計)の結果(表3参照)にも明らかである。

表3 チュータのアドバイスは役に立ちますか

単位：%

	短期大学		大学	
	1年生	2年生	1年生	2年生
不満（そう思わない、全くそう思わない）	14	15	12	21
満足（全くそう思う、そう思う）	78	73	80	63

チュータリングへの満足度に関連した項目として「チュータリングは利用しやすいですか」(「非常にそう思う」と「そう思う」の合計)の結果(表4参照)をみても好意的な反応である。

表4 チュータリングは利用しやすいですか

単位：%

	短期大学		大学	
	1年生	2年生	1年生	2年生
不満（そう思わない、全くそう思わない）	20	25	19	25
満足（全くそう思う、そう思う）	75	66	73	62

しかし、この点に関しては1年生の満足度に比して2年生の満足度が低い。これは、2年生の選択科目などの時間割の都合上1年生に比べるとチュータリングを利用できる時間が限られていることが影響していると思われる。さらに項目7「これからもチュータリングを利用するつもりでいますか」(「非常にそう思う」と「そう思う」の合計)については以上のような結果(表5参照)である。

表5 これからもチュータリングを利用するつもりでいますか

単位：%

	短期大学		大学	
	1 年生	2 年生	1 年生	2 年生
不満 (そう思わない、全くそう思わない)	13	23	11	19
満足 (全くそう思う、そう思う)	73	46	73	55

短期大学、大学ともに1年生は次年度も利用したいという期待に満足度が表現されている。この項目に関しては短期大学2年生にとっては、実際には「卒業後も利用するか」という質問となり不適当な項目であるかもしれない。しかし、1年生はチュータリング全般に対して高い利用度を示しているが2年生に関してはチュータのアドバイスにも今後の利用についても1年生ほどの利用度がみられない。これには相談内容も影響していると考えられる。2年生の相談内容のうち「授業科目について」が短期大学2年生の場合は25%、大学2年生の場合は41%を占めている。この相談内容は学習に関わる相談についての助言を与えるというチュータの役割、助言の範囲を超えており、この相談に関する不満はチュータやチュータリングが責を負うべき問題ではない。

## 5.5 成績との関係について

アンケート項目8「チュータリングを利用したことで宿題の成績が上がったと思いますか。」という設問では、「非常にそう思う」、「そう思う」と答えた1年生は短期大学で16%～40%（平均32%）、大学で18%～52%（平均30%）であったが、「そうは思わない」、「全くそうは思わない」と否定的な回答をしたのは短期大学で27%～42%（平均34%）、大学で36%～52%（平均41%）で、より高い数字を示した。2年生の場合、さらに顕著な数字が表れた（「非常にそう思う」、「そう思う」：短期大学→12%～39%（平均25%）、大学→10%～40%（平均23%）；「そうは思わない」、「全くそうは思わない」：短期大学→22%～52%（平均35%）、大学→25%～61%（平均40%））。このことから、「3. チュータリングに満足していますか」の項目ではチュータリングに高い満足度を示したにもかかわらず、この項目では1、2年生ともに否定的な回答や「わからない」と回答した数字の高さを考え合わせると、チュータリング効果が宿題の成績に関して学生には実感されていないように思われる。しかし、チュータの役割は、「学生が学習上のアドバイスを必要とする時に気楽に個別に相談を受けたり、指導する」ことであり、それが成績の向上に即効的に繋がるわけではない。むしろ、学生はチュータとのインタラクションで学習上の悩みが解消され、学習意欲を高められると考えられる。それ故、もう少し長いスパンでチュータリング利用を捉えるべきではないだろうか。

## 5.6 教員の関わりについて

チュータリング記録をみると、学生が自主的に相談にきた件数が439件（2004年度-2007年度の合計）、教員に勧められて相談に来た件数が329件（04年度-07年度の合計）

となっている（付録 B 学生の自由意志か教員に勧められた利用件数参照）。しかし、年度によって大きな違いが出ている。2006 年度春学期、2007 年度の春学期にはそれぞれ 147 件、177 件。このかなりのチュータリング利用は教員の勧めによるものである。その他の年度はほとんどが自主的に相談に来ているケースである。2006 年度、2007 年度に教員の奨励が多数あったことは以下の理由が考えられる。2006 年度はチュータリングカードを教員に配付したこと、2007 年度は各科目でどのような相談がチュータリングで可能かを教員向け、学生向けにプリントを配付したこと。学生にとってはどのような相談が可能なのか、教員はチュータがどのような相談にのれるのかが明確になった。なかなか自主的に相談にいかない学生に教員がチュータリングの利用を勧めることで利用率は高くなる。チュータリングの満足度はかなり高いが、一度相談にいくと相談に行きやすくなること、「またチュータリングを使用する」と答えているアンケート結果をみると、教員がチュータリングへの橋渡しをする必要があるといえる。

## 6. まとめと今後の課題

チュータリングを利用した学生の満足度は高い。また、今後も利用するつもりと考えている学生も多い。しかし、すでに述べたとおり、チュータリングの利用率はわずか 2 割である。利用しない理由をアンケートに見てみると、授業で忙しい（約 3 割）、時間が不便（約 2 割）、アルバイトのため（約 2.5 割）という結果である（付録 D 項目 9 参照）。授業で忙しいというのは課題に追われてチュータリングを利用する時間がないという解釈が成り立つ。学習サポートとして実施しているが、通常授業が忙しいので使わないというのは本末転倒のように思われる。効果的に学習する方法をまずチュータリングで学ぶと学習の方法に余裕が出てくるのではないだろうか。しかし、チュータリングのみにそれを任せるのではなく、LTL のように単位がでる授業として「学びの理論」を教えるような科目が必要である。また、チュータリングの効果を測定することも必要である。成績に与える影響はチュータリングのみではないが、チュータリング利用者の成績の傾向や単位取得率の傾向を調査することが今後の課題といえる。

さらに、チュータリングのマネジメントの方法として、全チュータとスタッフが定期的に会合を持つ必要がある。各チュータは報告として、記録はじめ、マネジメントスタッフに直接、報告はしているが、関わっているチュータ達が問題を共有し、改善策の検討の場があるとさらに、内容が改善されると思われる。また、評価資格不合格<sup>11</sup>に該当するような欠席累積者は、ほとんどはチュータ制度を利用していない。チュータのところに行くのは、授業に何とかついていって、質問のできる学生に限られているということ。理由に関しては、4 に記載をしたが、学習サポートという観点からの統合した検討の場づくりと対応のためのシステムづくりの検討が必要である。



## 注

- 1 「各大学、短期大学で実績をあげている教育方法や教育課程の工夫改善など学生教育の質の向上への取組を更に発展させる取組の中から、国公私を通じて特色ある優れた取組を選び、サポートします。また、選ばれた取組を社会に広く情報提供し、高等教育全体の活性化を促しています。」(文部科学省ホームページ <http://www.mext.go.jp/> より)
- 2 Learning to Learn 公式ホームページ <http://www.learningtolearn.com/college/collegemarcia.html>
- 3 Boston College Learning to Learn 公式ホームページ (<http://www.bc.edu/offices/ltl/>)
- 4 GRE は大学院進学、LSAT はロースクール進学に必要なテスト。
- 5 英語話者教員が交代で常勤し、学生の Writing Skill のさらなる向上や学生には高校時代には馴染みがなかった論理展開法の個別指導にあたっている。
- 6 キャンパスライフコーディネータの業務役割は学生が入学してから卒業までの一連の学習状態はじめ進路状況を把握する。特に、顕著に欠席が続くような場合には、早期に問題を解決するために学生のサポートをする。さらに、卒業後の進路が未確定の場合には、進路決定までのサポートをする。
- 7 チュータへの相談を待つまでもなく、この距離感を解消するために、Unit 1 においてのみならず、機会あるごとに授業担当教員が背景知識を得るための参考文献を授業中に紹介したり、本学図書館司書室が Unit 開始時期に図書館の蔵書から参考文献をリストにしたりして学生の学習の支援にあたっている。またチュータも自身の1年次での学習の体験から背景知識の説明をしたり、参考になった書物を推薦したりしている。
- 8 英語のクラスを学生の英語習熟度別にクラス分けするために開発されたテスト。
- 9 a から習熟度の高い順で d までのレベルとなる。ただし、c1、c2 といった2クラスある場合 c というレベルでクラス間に差はない。
- 10 2年次も1年末のPTで2年次のクラス分けを行う。2年次は advanced レベル、intermediate レベルの2つのレベル分けになり、それぞれのレベルで開講されるクラスを選択受講することができる。ただし、リスニングのクラスはPTスコア順にクラスが分けられる。04年度の短期大学2年生は14クラス、05年度以後は大学開学に伴い、短期大学の定員の改訂があったため、クラス数が減少している。
- 11 本学は開講予定時間数の3分の1を欠席すると学期末試験が受験できず単位が取得できない。
- 12 大学は2004年度開学のため2004年度に2年生は存在しない。
- 13 アンケートが実施されていないためデータなし。

## 付録 A

### チュータのオリエンテーション・レジュメ

- 1) 諸手続
  - ・教育企画・推進部より
  - ・勤務について
  - ・その他
- 2) チュータの役割
  - ・教員と学生をつなぐ役割
  - ・学習上の問題を拾って教員につなげる役割
  - ・Reading 及び文法を中心に学習のサポートをする役割
- 3) 「してよいこと」と「してはいけないこと」
  - ・翻訳をしなくて学習する方法を教える
  - ・高校時代とは違う学習方法について教える
  - ・答えを教えるのがねらいではない
  - ・どうやって問題を解くのか、英文を理解するのかを教える
  - ・予習復習の方法を教える
  - ・わからないことはわからないと答える
- 4) Reading のクラスとの連携
  - ・宿題のチェックをするところではない
  - ・授業担当教員から学生が送られてくるので、そのメモ記載の指導を行い、指導内容を報告する
  - ・必要に応じて文章を文法的に解説できるようにアドバイスする
- 5) Tutoring Management
  - ・教員から渡された用紙を学生が持参した場合、コンピュータ上で記入
  - ・Tutor は各自、Tutor's Record を記録し、教員から送られてきた学生なのか、自分で来た学生なのか、また、質問の内容等を記録する（コンピュータ上で記入）
  - ・tutoring notes を Web CT 上で記録する。
- 6) 学生が来ない時
  - ・Self Access & Study Support Center の整備
  - ・大阪女学院での学習法作成
  - ・大阪女学院での英語の用語作成
  - ・チュータリングマニュアル作成
- 7) 春学期の体制

## 付録B

## チュータリング記録（利用件数：同一人物が複数項目相談しているケースあり）

## 1 年生

	04年度春		04年度秋		05年度春		05年度秋		06年度春		06年度秋		07年度春		合計	
	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大
論理展開法	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	2	0	5
エッセイ構成	2	0	1	0	6	8	0	0	2	2	3	5	0	9	14	22
パラグラフ構成	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	1	0	0	0	2
リーディング	26	22	5	1	7	6	4	0	7	9	0	6	6	17	55	61
TOEIC/TOEFL	0	0	0	0	1	0	1	0	1	0	1	0	2	0	6	2
文法	20	10	3	3	7	13	0	0	11	14	4	6	7	9	52	55
くたばれ文法	-	-	-	-	-	-	-	-	20	7	0	0	5	14	25	21
ライティング	25	13	13	11	35	15	11	8	3	1	1	1	16	47	104	96
音声学	12	8	1	2	2	3	0	0	2	1	1	2	15	20	33	36
ディスカッション	12	4	4	0	9	20	4	0	1	5	0	0	1	12	31	44
アカデミックライティング	0	0	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	3
勉強全般	0	0	4	1	6	6	3	4	3	4	2	2	5	12	23	29
授業科目について	0	0	0	0	23	27	3	6	25	14	9	4	0	1	60	52
学生生活	0	2	2	0	2	2	0	0	1	0	0	0	4	5	9	9
編入	19	5	6	2	1	1	2	1	0	0	1	0	4	0	33	99
留学	0	0	0	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1	2
進路・就職	2	1	2	2	0	0	0	0	0	0	1	0	5	3	10	6
その他	9	5	1	4	2	1	0	0	2	0	0	0	0	0	14	10
合計	127	72	42	29	103	103	28	19	78	59	23	28	70	151	461	461

## 2 年生

	04年度春 <sup>12</sup>		04年度秋		05年度春		05年度秋		06年度春		06年度秋		07年度春		合計	
	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大
ペーパー構成	5	-	0	-	0	0	0	0	3	4	8	7	0	1	16	12
リーディング	2	-	0	-	0	0	2	0	0	0	0	0	1	1	5	1
TOEIC/TOEFL	0	-	0	-	2	3	0	1	0	3	1	1	0	2	3	10
文法	1	-	1	-	2	0	1	0	0	0	6	0	1	0	12	0

	04年度春 <sup>12</sup>		04年度秋		05年度春		05年度秋		06年度春		06年度秋		07年度春		合計	
	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大
くたばれ文法	0	-	0	-	0	0	2	0	0	0	0	0	1	0	3	0
ライティング	5	-	1	-	1	2	0	3	0	0	0	0	9	4	16	9
音声学	1	-	-	-	0	0	0	0	1	0	0	0	1	0	3	0
ディスカッション	1	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
期末試験	1	-	-	-	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0
勉強全般	0	-	-	-	0	4	1	0	2	3	2	1	0	2	5	10
授業科目について	0	-	-	-	21	27	2	8	10	2	2	3	4	1	39	41
学生生活	0	-	1	-	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	1	2
編入	3	-	6	-	4	0	2	1	2	0	8	0	3	0	28	1
留学	0	-	0	-	2	1	0	0	0	0	0	1	0	0	2	2
進路・就職	2	-	0	-	1	0	4	3	3	1	0	1	1	0	11	5
その他	0	-	3	-	0	4	2	2	1	0	0	0	0	0	6	6
合計	21	-	12	-	33	41	16	19	22	13	27	15	21	11	152	99

1 年生クラス別利用状況

	04年度春		04年度秋		05年度春		05年度秋		06年度春		06年度秋		07年度春		合計	
	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大
a1	8	17	3	9	13	24	0	5	15	1	4	5	6	7	49	68
b1	6	2	6	1	23	5	14	1	6	5	4	1	7	11	66	26
b2	-	-	-	-	-	14	-	5	-	5	-	0	-	3	-	27
c1	9	11	5	5	10	13	1	0	19	7	1	0	8	12	53	48
c2	52	12	19	10	4	7	7	1	11	10	1	1	6	7	100	48
c3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	13	12	13	12
d1	12	-	2	3	5	4	1	2	2	3	0	0	4	39	26	51
d2	9	9	2	1	12	11	6	7	0	14	0	0	3	37	32	79
e1	4	-	0	-	10	-	1	-	7	-	0	-	0	-	22	-
e2	11	-	4	-	17	-	4	-	9	-	0	-	0	-	45	-
合計	111	52	41	29	94	78	34	21	69	45	10	7	47	128	406	359

## 2 年生クラス別利用状況

	04年度春		04年度秋		05年度春		05年度秋		06年度春		06年度秋		07年度春		合計	
	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大
a	3	-	1	-	1	10	0	4	0	3	0	0	1	2	6	19
b	1	-	0	-	6	12	6	1	0	1	1	0	4	0	18	14
c	0	-	3	-	11	8	2	2	7	2	0	0	4	0	27	12
d	0	-	0	-	4	0	2	5	4	0	3	0	0	2	13	7
e	2	-	3	-	0	1	0	3	2	4	0	0	0	1	7	9
f	0	-	0	-	1	8	0	1	2	0	3	1	1	1	7	11
g	0	-	0	-	1	1	1	2	4	1	0	0	7	0	13	4
h	0	-	1	-	0	-	0	-	1	-	7	-	0	-	9	-
i	1	-	0	-	2	-	1	-	3	-	2	-	0	-	9	-
j	0	-	0	-	2	-	1	-	-	-	0	-	-	-	3	-
k	0	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
l	5	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	5	-
m	0	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	0	-
n	1	-	0	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-
合計	13	-	9	0	28	40	13	18	23	11	16	1	17	6	119	76

## 学生の自由意志か教員に勧められたチュータリング利用件数

	04年度春	04年度秋	05年度春	05年度秋	06年度春	06年度秋	07年度春	合計
学生の自由意志	182	82	271	92	5	74	5	439
教員推薦	2	0	3	0	147	0	177	329

**付録 C**  
**チュータリングアンケート結果**

1 年生

1. チュータリングを知っていますか。

単位 %

	04年度春		04年度秋		05年度春		05年度秋		06年度春 <sup>13</sup>		06年度秋		07年度春		平均	
	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大
はい	89	77	91	89	86	83	82	81	-	-	73	57	64	80	81	78
いいえ	11	23	9	11	12	16	17	17	-	-	27	43	36	19	18	21
無回答	0	0	0	0	2	1	1	2	-	-	0	0	0	1	1	1

2. 今までに利用したことがありますか。

はい	23	9	25	18	31	27	30	26	-	-	22	11	15	33	24	21
いいえ	71	90	72	82	68	73	68	74	-	-	77	88	85	67	74	78
無回答	6	1	3	0	1	0	2	0	-	-	1	1	0	0	1	1

3. チュータリングの支援に満足していますか。

非常にそう思う	27	17	13	24	32	10	23	10	-	-	18	16	18	37	22	19
そう思う	58	60	55	56	59	79	60	59	-	-	58	69	64	49	59	62
そうは思わない	9	20	19	0	2	10	9	18	-	-	15	5	9	6	10	10
全くそうは思わない	2	0	4	0	0	0	0	0	-	-	9	0	9	0	4	0
わからない	4	3	9	20	7	1	4	13	-	-	0	10	0	8	4	9
無回答	0	0	0	0	0	0	4	0	-	-	0	0	0	0	1	0

4. チュータリングは利用しやすいですか。

非常にそう思う	33	10	6	28	28	2	19	10	-	-	15	5	27	39	21	16
そう思う	45	58	57	36	56	79	56	57	-	-	52	69	55	44	54	57
そうは思わない	11	23	32	20	13	14	21	23	-	-	21	21	14	13	19	19
全くそうは思わない	2	0	2	0	0	0	0	0	-	-	3	0	0	2	1	0
わからない	9	10	2	16	3	5	2	10	-	-	6	5	0	2	4	8
無回答	0	0	0	0	0	0	2	0	-	-	3	0	4	0	1	0

5. チュータのアドバイスは役に立ちますか。

非常にそう思う	24	17	12	24	32	17	25	13	-	-	15	26	32	37	23	22
そう思う	48	57	71	56	56	79	56	67	-	-	55	37	41	50	55	58
そうは思わない	11	10	11	0	6	2	13	15	-	-	9	32	23	9	12	11
全くそうは思わない	0	3	2	0	0	0	0	0	-	-	9	0	0	0	2	1

わからない	4	7	4	16	6	2	4	5	-	-	12	5	0	2	5	6
無回答	13	6	0	4	0	0	2	0	-	-	0	0	4	2	3	2

6. 授業担当の先生はチュータリングを利用することを促しましたか。

非常にそう思う	18	10	6	16	9	7	6	5	-	-	12	16	4	20	9	12
そう思う	32	43	47	36	34	41	25	42	-	-	28	31	27	46	32	40
そうは思わない	24	17	30	16	37	26	43	37	-	-	33	26	32	17	33	23
全くそうは思わない	11	10	11	16	7	7	17	3	-	-	15	11	9	13	12	10
わからない	13	17	4	16	13	19	4	13	-	-	9	11	14	4	10	13
無回答	2	3	2	0	0	0	6	0	-	-	3	5	14	0	4	2

7. これからもチュータリングを利用するつもりでいますか。

非常にそう思う	26	23	11	24	33	21	19	13	-	-	21	11	28	41	23	22
そう思う	55	61	49	44	56	45	57	56	-	-	40	47	45	50	50	51
そうは思わない	3	0	13	4	2	19	8	13	-	-	21	21	14	4	11	10
全くそうは思わない	0	3	6	0	2	5	0	0	-	-	6	0	0	0	2	1
わからない	12	13	19	28	7	10	15	18	-	-	12	21	9	4	12	16
無回答	4	0	2	0	0	0	2	0	-	-	0	0	4	0	2	0

8. チュータリングを利用したことで宿題の成績があがったと思いますか。

非常にそう思う	9	7	0	8	7	2	8	3	-	-	18	11	14	11	9	7
そう思う	24	13	16	20	22	29	28	15	-	-	22	21	23	41	23	23
そうは思わない	20	26	36	36	32	36	30	46	-	-	24	47	27	17	28	35
全くそうは思わない	7	17	6	0	6	0	2	5	-	-	12	5	5	9	6	6
わからない	36	37	40	36	33	31	25	28	-	-	24	16	27	22	31	27
無回答	4	0	2	0	0	2	8	3	-	-	0	0	4	0	3	2

9. [チュータリングを使用しなかった学生へ] チュータリングを利用しないのはなぜですか。

授業で忙しい	55	50	53	39	44	37	43	33	-	-	28	28	33	32	43	37
時間が不便	46	36	39	36	25	20	22	27	-	-	18	14	14	15	27	25
知らなかった	14	23	4	8	11	22	12	19	-	-	18	28	24	17	14	20
アルバイトのため	25	21	31	28	18	12	25	30	-	-	19	15	16	20	22	21
クラブのため	2	2	4	5	0	1	1	3	-	-	1	0	0	1	1	2
その他	31	28	25	32	34	27	33	22	-	-	15	13	12	14	25	23
無回答	0	0	0	0	3	9	5	9	-	-	1	1	1	1	2	3

2 年生

1. チュータリングを知っていますか。

単位 %

	04年度春		04年度秋		05年度春		05年度秋		06年度春		06年度秋		07年度春		平均	
	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大	短	大
はい	57	-	58	-	86	96	82	91	82	85	90	80	79	69	76	84
いいえ	43	-	41	-	13	2	17	9	17	15	10	19	15	27	22	14
無回答	0	-	1	-	1	2	1	0	1	0	0	1	6	4	1	2

2. 今までに利用したことがありますか。

はい	9	-	7	-	20	22	16	18	27	24	32	22	21	12	19	20
いいえ	90	-	90	-	77	76	83	80	71	76	67	77	73	84	79	79
無回答	1	-	3	-	3	2	1	2	2	0	1	1	6	4	2	1

3. チュータリングの支援に満足していますか。

非常にそう思う	27	-	14	-	28	7	26	8	8	18	15	6	28	19	21	12
そう思う	42	-	64	-	54	55	52	59	64	49	61	55	41	57	54	55
そうは思わない	15	-	23	-	9	21	11	21	8	11	10	23	24	10	14	17
全くそうは思わない	0	-	0	-	2	3	3	0	4	3	3	0	7	9	3	3
わからない	12	-	0	-	5	7	5	8	10	11	9	16	0	0	6	8
無回答	4	-	0	-	2	7	3	4	6	8	2	0	0	5	2	5

4. チュータリングは利用しやすいですか。

非常にそう思う	19	-	13	-	16	14	24	13	10	16	12	16	24	9	17	14
そう思う	50	-	49	-	50	48	45	42	64	55	51	34	35	62	49	48
そうは思わない	19	-	23	-	23	14	18	29	10	13	25	39	31	19	21	23
全くそうは思わない	0	-	5	-	2	3	3	8	4	0	5	0	7	0	4	2
わからない	12	-	5	-	7	14	8	4	6	5	5	10	0	5	6	8
無回答	0	-	5	-	2	7	3	4	6	11	2	0	3	5	3	5

5. チュータのアドバイスは役に立ちますか。

非常にそう思う	27	-	27	-	21	14	16	17	11	21	15	3	17	14	19	14
そう思う	42	-	46	-	58	48	62	49	59	47	64	55	48	48	54	49
そうは思わない	12	-	18	-	7	14	11	13	8	16	9	23	21	29	13	19
全くそうは思わない	4	-	0	-	0	3	3	0	2	0	0	3	10	0	2	2
わからない	15	-	0	-	7	14	5	13	8	8	7	16	4	0	6	10
無回答	0	-	9	-	7	7	3	8	12	8	5	0	0	9	6	6



## 6. 授業担当の先生はチュータリングを利用することを促しましたか。

非常にそう思う	15	-	5	-	9	14	16	8	0	11	2	0	14	10	9	9
そう思う	19	-	31	-	31	41	29	33	23	23	8	26	21	33	23	31
そうは思わない	23	-	23	-	37	24	26	25	40	29	51	39	38	19	34	27
全くそうは思わない	27	-	23	-	9	7	13	17	23	8	22	26	27	19	21	15
わからない	12	-	13	-	9	7	13	13	6	13	12	6	0	9	9	10
無回答	4	-	5	-	5	7	3	4	8	16	5	3	0	10	4	8

## 7. これからもチュータリングを利用するつもりでいますか。

非常にそう思う	19	-	5	-	21	18	13	13	12	18	7	7	14	19	13	15
そう思う	38	-	14	-	44	42	17	50	43	42	27	31	45	33	33	40
そうは思わない	4	-	22	-	12	3	16	4	12	18	17	26	17	14	14	13
全くそうは思わない	8	-	14	-	0	10	11	4	4	0	10	10	14	5	9	6
わからない	23	-	32	-	19	24	32	25	19	11	25	26	10	10	23	19
無回答	8	-	13	-	4	3	11	4	10	11	14	0	0	19	8	7

## 8. チュータリングを利用したことで宿題の成績があがったと思いますか。

非常にそう思う	0	-	5	-	5	3	8	4	2	11	7	3	10	5	5	5
そう思う	12	-	9	-	16	11	18	17	29	29	32	7	21	24	20	18
そうは思わない	18	-	27	-	28	35	29	25	24	15	24	42	38	29	27	29
全くそうは思わない	4	-	9	-	2	7	13	8	4	10	9	19	14	9	8	11
わからない	58	-	36	-	42	41	24	42	31	24	25	29	14	9	33	29
無回答	8	-	14	-	7	3	8	4	10	11	3	0	3	24	7	8

## 9. [チュータリングを使用しなかった学生へ] チュータリングを利用しないのはなぜですか。

授業で忙しい	50	-	30	-	38	46	29	43	29	32	24	28	26	29	32	36
時間が不便	36	-	21	-	30	27	23	18	18	20	17	18	19	18	23	20
知らなかった	23	-	40	-	8	5	12	5	7	8	5	10	10	18	15	7
アルバイトのため	21	-	23	-	29	28	28	26	19	22	25	29	20	18	24	25
クラブのため	2	-	2	-	1	0	1	0	1	2	0	0	3	1	1	1
その他	28	-	18	-	26	25	24	37	20	15	23	14	15	11	22	20
無回答	0	-	0	-	7	11	9	11	7	2	6	2	7	6	5	6

付録 D

チュータリング・アンケート

チュータリング・センター（以下チュータリング）は、大阪女学院大学の学習支援プログラムとして、ウキルミナホールの隣に開設されています。このアンケートは、チュータリングが大阪女学院の学生にとってどれくらい役立っているかを調べるものです。

---

\* 英語必修科目（Reading, Discussion, Writing）のクラスを記入してください。

（                      ）

1. チュータリング・センター（以下チュータリング）を知っていますか。                      はい      いいえ
2. 今までにチュータリングを利用したことがありますか。                      はい      いいえ

---

質問2で「いいえ」を選んだ場合は、質問3と4に回答してください。  
「はい」を選んだ場合は、質問5から回答してください。

- 
3. 質問2で「いいえ」を選んだ人への質問です。センターを利用しないのはなぜですか。  
（該当するものはすべてチェック）

- \_\_\_ 授業や宿題が忙しすぎる                      \_\_\_ アルバイトがあった
- \_\_\_ 開いている時間が不便                      \_\_\_ \_\_\_\_\_クラブが忙しい
- \_\_\_ センターを知らなかった                      \_\_\_ その他（説明して下さい）：

4. 何がどのように変わればチュータリングを利用したいと思いますか。（具体的に説明して下さい）

---

質問2で「はい」を選んだ人は、質問5から答えて下さい。

5. 何回チュータリングを利用しましたか。  
1回   2-5回   6-10回   11回から以上
6. 何曜日にチュータリングを利用しましたか。（該当するものすべて）  
月   火   水   木   金   土
-

次の質問に対する自分の意見を選んで下さい。	4 非常に そう 思う	3 そう 思う	2 そう は 思 わ な い	1 全 く そ う は 思 わ な い	U 分 か ら な い 不 確 実
7. チュータリングの支援に満足している。	4	3	2	1	U
8. チュータリングが開いている時間は都合がいい。	4	3	2	1	U
9. チュータリングは利用しやすい。	4	3	2	1	U
10. チューターは役に立つ。	4	3	2	1	U
11. 勉強するためにはチュータリングは騒々しい。	4	3	2	1	U
12. 授業担当の先生はチュータリングを利用することを促した。	4	3	2	1	U
13. チューターのアドバイスは役に立つ。	4	3	2	1	U
13. チュータリングの中にあるコンピューターは英語文章を書くために役に立つ。	4	3	2	1	U
15. チューターが言うことを理解できた。	4	3	2	1	U
16. チュータリングを利用することが英語力を上げることに役立っていない。	4	3	2	1	U
17. これからもチュータリングを利用するつもりでいる。	4	3	2	1	U
18. チュータリングを利用したことで宿題の成績が上がった。	4	3	2	1	U
19. チューターが言うことを理解できない。	4	3	2	1	U
20. チュータリングの中のコンピューターで英語文章を書くことは難しい。	4	3	2	1	U
21. チューターと話すために長時間も待たなければならなかった。	4	3	2	1	U
22. チュータリングを利用することで、英語を書く力が上達した。	4	3	2	1	U
23. チューターのアドバイスに失望した。	4	3	2	1	U
24. チュータリングで、何のアドバイスを受けましたか。(該当するものすべてチェック)					
<input type="checkbox"/> 情報を探するためのアドバイス	<input type="checkbox"/> 文法や書き方 (spelling, paragraph format) のアドバイス				
<input type="checkbox"/> 宿題を理解するためのアドバイス	<input type="checkbox"/> 単語、語彙や言葉の使い方のアドバイス				
<input type="checkbox"/> 考えを構築していくためのアドバイス	<input type="checkbox"/> 読解のアドバイス				
<input type="checkbox"/> ペーパーの組み立てのアドバイス (paragraph, essay, or research paper)	<input type="checkbox"/> discussion や会話のアドバイス				
<input type="checkbox"/> topic sentence や thesis statement を理解するアドバイス	<input type="checkbox"/> 発音や音声学のアドバイス				
	<input type="checkbox"/> _____ 授業のアドバイス (どんな授業)				

25. どの授業のためにチュータリングを利用しましたか。  
26. 一番最近チュータリングを利用したときのことについて教えてください。

どの授業のためでしたか。

どんな宿題でしたか。

チュータリングを利用したことは役立ちましたか。説明してください。

27. チュータリングに関することで最も気に入っていることは何ですか。説明してください。  
28. チュータリングに関することで最も気に入らないことは何ですか。説明してください。  
29. チュータリングをより良くするために何か提案はありますか。

ご協力いただき、ありがとうございました。